

きせつふう  
季節風はなぜふくの

たいりく かいよう あたか た  
大陸と海洋では、暖まり方がちがう

陸地は太陽の熱を受けると暖まりやすく、海の水は暖まりにくいのです。昼は海よりも陸地のほうが温度が高いため、海から陸に向かって風がふきます（海風）。夜は陸地よりも海の水のほうが冷めにくいので、陸から海に向かって風がふきます（陸風）。これと同じように、季節が変わると、大陸と海洋では暖まり方がちがうので、温度差ができます。この温度差によって、季節による風のふき方が変わります。

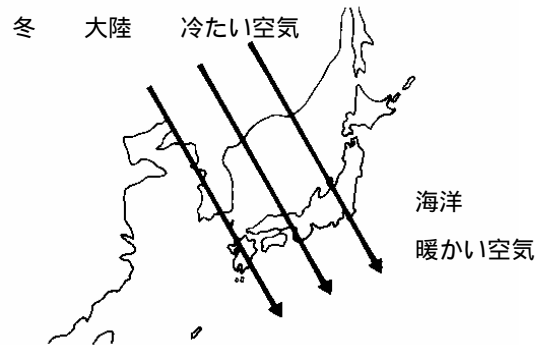
きせつふう きほ おお うみかぜ りくかぜ  
季節風は、規模が大きくなった海風と陸風

昼と夜に起きる、海風と陸風の規模を大きくしたものが、季節のちがいによって、大陸と海洋の間におきています。これを季節風といいます。北半球の夏は、海洋よりも大陸のほうが暖まりやすく、このため、海洋から大陸に向かって風がふきます。太平洋から中国大陸に向かって南東の風がふくので、日本では南よりの暖かい風がふきます。

冬には、大陸は海洋よりも冷えこみが大きく、大陸の空気よりも海洋上の空気のほうが暖かいので、大陸から海洋に向かって風がふきます。日本では、シベリア大陸のほうから北西の冷たい風がふきます。（監修・村山 貢司）



夏は太平洋から南よりの暖かい風がふく



冬は大陸から北西の冷たい風がふく

